

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

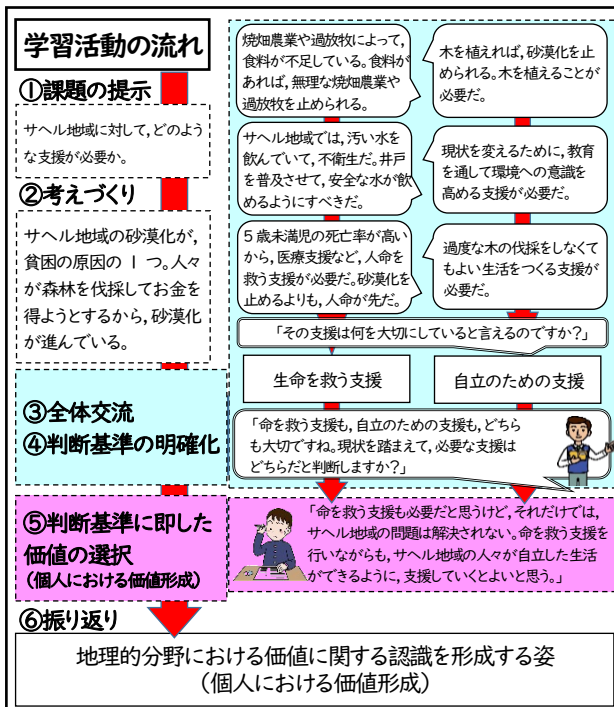
地理的分野専門委員長 笠松町立笠松中学校 山田 雅史

1 昨年度の授業実践から

昨年度の地理的分野の実践では、以下の方向性で実践を重ねてきた。

- ・事実に関する認識を獲得する授業の確実な実施
- ・価値に関する認識を形成する授業の積極的な実践

事実に関する認識を獲得する授業においては追究の視点や、立場を明確にすることの重要性を改めて確認することができた。また、価値に認識を形成する授業については、その授業の在り方をこれまでの授業モデルに照らし合わせ、改善を重ねた。昨年度の実践から、価値に認識を形成する授業の授業モデルは以下のようになると考えている。



2 研究内容

Ⅰ社会の形成に参画する力を育てるための指導方法の明確化

I 事実に関する認識を獲得する授業モデルの定着・発展

- ①岐中社における事実に関する認識の定義付け
- ②一単位時間における【認識を深める場】における手立て

Ⅱ価値に関する認識を形成する授業モデルの構想・提案

- ①岐中社における事実に関する認識の定義付け
- ②価値に関する認識を形成する思考過程の明確化
- ③一単位時間における【認識を深める場】における手立て

3 具体的な方向性

「事実に関する認識を獲得する授業」を構想する際、以下の点に重点を置く。

①岐中社における事実に関する認識（社会認識）の定義付け

→指導案作成の際、本時における事実に関する認識が何かを明確にして明記する。

本時における事実に関する認識（例）

→サヘル地域で砂漠化が進行している理由は、経済的貧しさを脱却するために行った人口増加と、食料・経済力を得るための開発が原因である。

②一単位時間における【認識を深める場】における手立て

→この場面では、社会的な見方を働かせ、事実に知識を概念的知識へと深めるための手立てが必要である。この概念的知識を形成することを目指し、「価値判断を問う」場面を位置付け、価値に関する認識を顕在化させる。

価値判断を問う（例）

「サヘル地域の砂漠化をこのままにしておくことは皆何ごんな影響を与えるのか」と問うことで、砂漠化の進行を放置していくことが誰にとってどのような意味をもつのかを考えさせ、認識を顕在化させる。

「価値に関する認識を形成する授業」については、地理的分野では一割程度とされてきた。「南アメリカ州（開発と環境）」、「地域の在り方」で実践が行われてきた。いまだ実践がなされていない単元もあると考えられるため、確かな事実に関する認識を獲得した上で、価値に関する認識を形成する授業の実践を積極的に行っていく。そのうえで、価値に関する認識を形成する授業を構想する際、以下の点に重点を置く。

①岐中社における価値に関する認識の定義付け

→指導案作成の際（授業を仕組む際）、本時における価値に関する認識が何かを明記する。

本時における価値に関する認識（例）

→サヘル地域に対して必要な支援には、「生命を救う支援」と「自立のための支援」がある。（←個人の価値形成）

②価値に関する認識を形成する思考過程の明確化

→課題の設定、立場の分析、意見の対立、生徒がたどり着く結論とその根拠など、生徒の思考を明確にする。

意見をもとに、判断基準を位置付ける（例）

→「私は、自立に向けた支援が必要だと思います。サヘル地域の砂漠化の原因には、過伐採や過放牧、焼畑農業があります。どれだけお金やものの支援をしても、これらの原因が解決されなければ、砂漠化が解決されないからです。」